拾ったおはなし

296

RCC

# 宝石坑の怪異

畑耕一

鉱山には、あれところなければ、いろいろな怪談がありますが、ことに宝石坑には、形のかわった奇抜な怪談があります。

ヨーロッパの宝石坑では、「たたく小男」という怪異が、ながく信じられています。その「たたく小男」は



ローマ時代は皇帝の命令によって、宝石坑の中へ追いやられたユダヤ人の霊魂だといわれています。すなわち「たたく小男」は決して坑夫に恐がられてはおりません。「たたく小男」は気軽で木訥で、善良な性質をそなえた霊魂です。坑夫にすばらしい鉱脈を教えるという使命を、彼等は持っているそうです。

等はもまいる先らでせう。一七五〇年頃、英国の学者ルイス・モリスという当時の学者が、その小男について、こう書いています。―「宝石坑に於けるその男は、至極快活で善良な性質である。そしてその男は形がない。あるかも知れないが、誰も目に見た者はない。ただ、彼等が土の中をたたく小さな音を聞き得るばかりである。彼等は、そのノックする音によって、幾多のヨーロッパの区域に於ける、有名な宝石の鉱脈を坑夫たちに発見せしめた。彼等は、実に宝石坑の恩人なのである。彼等が新しい鉱脈を教える方法は、土の中をコツコツとたたく音で、注意ぶかい坑夫の耳にのみ聞える。

す。そして鉱脈が発見されると、僕等はすぐにそこかへ行ってしまう。僕等は決してその姿を坑夫たちに見せようとはしないのです。僕等のたたく「コツコツ」という音は、坑夫が、鶴嘴を進めるには絶えず、いつも一定の距離を保っている」。そう。

而して イギリスのスタッフォード地方の或る鉱山では、その「たたく男」は似た妖精があって、坑夫たちが水をかえ出すためのバケツをひきあげる手伝いさえしたということです。もっとも、その妖精が現われるのは、なにか坑内に変事の起る前兆になるそうです。ドイツにも鉱山のこれに似た妖精があるそうで、その妖精は、善いと悪いと二重の性質をもって、坑夫服をつけた二尺ばかりの小さな鉱夫さんだそうです。

~~尽せないのが[illegible]です。~~
ガトンという怪異もありません。この怪異は、宝石坑夫達が恐れている敵です。こいつは、坑夫たちが懸命に鶴嘴(つるはし)を動かしていると、そこへ、不意に、いづくともなく奇怪な足音や音を出して、坑夫たちを惑(まど)わしたりする、イヤな奴(やつ)です。或る時、或る坑内で、



働いている坑夫たちの目の前の岩に、突然、一団の火焔があらわれ、凄まじい音を立てて燃えあがったかと思うと、忽ち岩が、人間の形(かたち)となり、坑夫たちをおびやかしました。鉱脈から発する或る種の燃えやすいガスが、空気中の酸素と作用されての炎といえばいえるものの、そうなるとそれは説明しきれない不思議があるのだそうです。

実に不思議な話があるのだそうです
アフリカの或る宝石坑でおこった出来事ですが、そ
こに長年働いていたアメリカ人の坑夫頭が、同
じ幽霊を三度も見たと云う話があります。第一回に
でくわした時は、幽霊は坑内の鉄道の上を、箱
車を馬にひかせて、いきなり手綱をとり
ながら、スーッと音もなく眼の前を通って、坑内の
縦坑の中へ吸われるようにして消えてしまいました。
その時は、あまりに不意だったのと、あまりに恐ろ
しかったので、その坑夫頭は、十分よく見ることが
できなかったのですが、それでもその馬も箱車
も乗っている男も、まるでボーッとした灰色の

キリのようで

霧のように、殊に馬は、まるで木彫人形のようにて、堅く、首も振らず四脚も動かさず、線路の中を、スーッと滑って行ったということです。

第二回に出くわした時に、坑夫頭は、勇気を出して、その幽霊が、どんな顔かたちをしているかを見きわめるため、しっかり視線を向けたのですが、幽霊は、黒いつば広の帽子を深くかぶり、その面きかせん、箱車に乗っているので、どうにもわかりませんでした。—坑夫頭は、もう一度、その幽霊が出あろうことを信じました。うんと今度は、声をかけてやろうと思っていました。果して数日後、彼はその箱車の幽霊に出くわしました。「おい、お前は誰だ?」と

前は誰だ」と、坑夫頭はすかさず声をかけました。幽霊は、倒れように、顔を見せないようにして、線路の上に馬を進めました。「おい、お前は誰だ？」と坑夫頭は、もう一度どなりつけて、その貨車のあとを追おうとしたのでした。その時！彼はハッと我にかえって立ちどまりました。もう一歩先きに、深い縦坑が、暗い大きな口をあけて彼を待ちかまえていたのでした。まったく一歩の差！――坑夫頭は夢中に飛びさがって助かったのでした。こうして、坑夫をまでおして、生命を失わしめる意地わるい幽霊が出現する話は、ヨーロッパの鉱山――ことに宝石坑にずいぶん多く伝わっています。坑内の宝石を

どうせ[illegible]守るためらしいといわれています。イギリスの
コーンウォール地方の鉱山に多いということです。
坑内で口笛を吹くことは、坑夫には大禁物です。
それは、口笛が、坑内に棲む悪魔を呼びおこすことになるからだといいます。また、グッド・フライデー――
つまりヤソ復活祭の前の金曜日と、イノセント・デイ
――猶太王ヘロデがキリストの誕生を聞いて、嬰児を虐殺した日、十二月二十八日と、クリスマスの日には
坑夫はいっさい坑内にはいらぬことにしています。
今はどうだかわかりませんが、むかしはそうでした。
この日は、坑夫の魔日なのです。もし坑内にはいれ
ばおそろしい災難にあうということです。